

NPO法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター

車椅子で旅がしたい。行ける場所を探して行くのではなく、行きたいところに行きたい。チエアウォーカーの素朴で切なる願いをかなえようと、奮闘を続けて23年。今では「伊勢おもてなしヘルパー」「入浴介助ヘルパー」の紹介、「福祉機器レンタル」などサービスの幅を広げ、付き添う人もリラックスして楽しめる旅を提供。「年を重ねても自由に旅ができる」と、高齢の方たちの希望の源にもなっています。



バリアフリーのアクティビティーも充実

お問い合わせ

「NPO法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」
TEL 0599-21-0550

鳥羽市駅前の「NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」を訪ねました。スタッフは野口あゆみさん、中村千枝さん、上村静香さん、中めぐみさんの4人。今回は事務局長で、23年前にこの活動を立ち上げた野口さんにお話を伺いました。

——バリアフリー観光の情報を提供するセンターの先駆けとして頑張ってきたが、状況は変化していますか。

野口：始めたころは、まずは現状を整えてから旅に来てもらうべきだということ意見をたくさんいただきました。でも、根拠はなかったのですが、そうじゃないという確信があり、まずは来ていただいた

て、そこで旅に来た人も、受け入れる側も一緒に、一つずつ問題を解決していく方がいいと思っていました。結果として、続けてきたトライアンドエラーという形が一番早くて確かな方法だったと感じています。今では、観光業者の方も積極的に対応してくださるようになりました。

——バリアフリーツアーセンターという新しい試みが続いたのには、伊勢志摩という土地柄も関係していますか。

野口：伊勢はおもてなしのまちとい



鳥羽駅前の観光ビル内にあるオフィス

われるように、観光地という土地があったのは大きかったと思います。車椅子の方からも「普通に、自然に接してくださるのでうれしい」というお声をよく聞きます。高齢社会になり、障害のある方もたくさん旅に出られて、マーケットとしても大きいものになっていることもあるでしょうね。



中村 千枝さん 上村 静香さん 野口 あゆみさん

——旅に求めるものも変化しているのでしょうかね。

野口：歴史や文化を知り、体験したいという方が増えています。いろいろな団体とコラボして、よりストーリー性のある旅をしていただけるようになってきました。また、「家族を癒す旅にしたい」というお声も増えています。「最後に伊勢神宮に行きたかったが、あきらめていた」というシニアの方が、車椅子などをを使って「こんなに楽に来られるのなら、毎年でも来たい」と明るくいわれるとう

れしくなります。皆さんそれぞれに状況が違いますから、なるべくたくさんの情報を提供できるように努めています。——今では多くの人が、障害がある人は旅行ができないとは思わなくなりました。バリアフリー、ユニバーサルデザインの提唱をしていますが、自然や伝統を壊してまでそれを求めているものではありません」と話す野口さん。守るべきものは守りつつ、今後も、しなやかに、積極的に現状を拓いていけることでしょう。

インタビュアー：堀口裕世



志摩ロードパーティーフマラソンの「バリアフリーパーティラン」を運営 ※



「伊勢おもてなしヘルパー」は内宮で活躍 ※



障害者の視点からの検証も ※



ホテルでのバリアフリー研修なども行う ※